

NPO 法人 横須賀創造空間 設立趣旨書

三浦半島——。

人口 40 万人余りのこの場所は、年間通して温暖な気候で知られています。また、東京湾と相模湾の 2 つの海に挟まれていることから、風光明媚で海や山の幸が豊富。しかも東京都心へわずか 1 時間というアクセスの良さもあり、手近な観光地でなおかつ東京・横浜のベッドタウンとしての役割を担っています。

自然がたっぷりあって、都心への通勤も可能。子育て世代からシニアまで、これほどまでに住みやすい地は首都圏を探してもなかなかありません。

ところが、

横須賀を中心とした三浦半島エリアの人口は、年を追うごとに減り続けています。

この地域に移住する人が少ないうえに、地元で生まれ育った若者でさえも、東京や横浜へ移り住んでいくケースが少なくありません。

この現象は、【地域の根源的かつ最大の課題】として、この地に暮らす人が幅広く危機を認識すべきことだと言っても過言ではありません。

そもそも、いったいなぜ、人口が減っているのでしょうか。

その理由を、私たちは 2 つの仮説にまとめました。

1 つは「地域の魅力の発信が不足しているのではないか？」。そしてもう 1 つは、「“地元で働くこと” が不可能だと思われるのではないか？」ということです。

三浦半島がいったいどんな場所で、どんな文化があって、どんな風景に出会え、何ができるのか。それを日常的に発信することにより、横須賀を中心とした三浦半島エリアを知らない、もしくは少しは知っているという人に実際に足を運んでもらい、ファンになって、そしてゆくゆくは移り住んでほしい。

このことを、＜三浦半島以外に住んでいる人＞のみならず、＜昔、三浦半島に住んでいた人たち＞にも幅広く発信する。しかも行政や企業が行う一時的なキャンペーンではなく、“発信し続ける” ことが、求められます。

紙媒体から SNS まで、手段は多種多様です。コンテンツの提供のみならず、イベントや観光ツアーなどもあるでしょう。

肝心なことは、横須賀から数多くの“地元愛” 情報を届け、人々に関心を持ってもらい、足を運んでもらうこと。

そのためのノウハウが、必要とされています。

一方、若者が地域から出て行ってしまうことについては、景気や企業の立地条件など、ハード面がとても影響していきます。

それでも、これだけ通信手段が発達した時代にあつて「三浦半島で働ける」、「三浦半島から通える」ということをあらためて認識することが、人を地域に戻すフックになるはず

です。
若者が学校を出てから、スキルをじゅうぶんに身に付けるために東京で働くことは、決して悪いことではありません。また、刺激を求める若い世代では、カルチャーを求めて東京で暮らす選択をすることもあるでしょう。

しかし、スキルをある程度身に付けたら、もしくは結婚して家族ができたら、次は「地元へ戻ってくる」という生き方こそ、ますます求められることなのではないでしょうか。

今までは、環境がいいから“定年後に”住んでみよう、という人は多くいました。しかし肝心なことは、現役のうちに地元に戻り、地域で働く（暮らす）ことにより、ふるさとをより活性化させていくことに他なりません。「三浦半島で働く」「三浦半島で暮らしながら働く」ことをより具体的に訴求していくことが肝心なのです。

横須賀を中心とする三浦半島地エリアで面白い動きがある、こんなことを実現しようとしている人がいる、クリエイターを探している、企業がこんな人材を欲しがっている——そのような「情報」を常に交換できる場をつくり、一歩進んでさまざまな交流ができれば、もっと地域が活気づいていくことでしょう。

これら 2 つのことを実現し、横須賀を中心とした三浦半島エリアに幅広い意味で“人を呼ぶ”ために、私たちは協働します。

特定の組織に偏らず、行政から一般企業、フリーランスまで幅広い協働、人材交流を進めるためには、この地域を愛するメンバーによる特定非営利活動法人による活動がもっともふさわしいと考えました。

そのメンバーの多くは「三浦半島以外でスキルを積み、他の環境を見てから三浦半島へ戻ってきた」者です。

これは、一人ひとりが「プロフェッショナル」で、なおかつ全員が「三浦半島のことを他地域の事例と照らし合わせて相対的に考えられる」ことを意味します。

企画立案、情報発信、経営的思考、リーダーシップ、協働作業…。今までそれぞれの場で培ってきたノウハウを持ち寄り、有機的な化学反応をもたらし、プラスの循環を生む。

私たちは、私たちがもつあらゆるスキルをコラボレートさせ、新しいパワーをもって、“人口減”をはじめとする諸問題に立ち向かっていきます。

そのチカラが、「地域の課題解決のエンジン」になることを信じて——。

平成 25 年 8 月 26 日

法人の名称 NPO 法人 横須賀創造空間
設立代表者 藤野 浩章